

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況（個別）

平成 15 年 8 月 4 日

上場会社名 アイホン株式会社

（コード番号：6718 東証・名証第 1 部）

（URL <http://www.aiphone.co.jp>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 市川 周作（TEL：(052) 682 6191）
責任者役職・氏名 常務取締役管理本部長 青木 弘雄

開示対象 連結子会社における四半期業績の開示体制が整備されておきませんので、単体ベースでの開示としております。また、連結子会社の規模は小規模で業績に及ぼす影響は軽微であります。

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近会計年度における認識の方法との相違の有無： 有 無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日）

（1）売上高 [百万円未満切捨]

	売上高	
	百万円	%
16 年 3 月期第 1 四半期	6,490	13.5
15 年 3 月期第 1 四半期	5,720	
(参考)15 年 3 月期	29,890	6.4

（注）1. 四半期業績の概況は当期より作成しているため、売上高の前年同四半期の数値は公表していませんが、参考として記載いたしました。

2. パーセント表示は、前年同期比増減率を示しております。

[売上高に関する補足説明]

当第 1 四半期におけるわが国の経済は、企業のリストラ効果による業績の回復が一部で見られたものの前期からの民間設備投資の抑制や雇用環境の悪化に伴う個人消費の低迷が続くなど厳しい状況で推移いたしました。

国内の住宅市場におきましては、依然として新設住宅着工戸数が減少傾向にあり厳しい状況にありましたが、犯罪の増加や凶悪化により家庭の防犯意識が高まり、新設住宅のみならず既設住宅においても防犯システムの需要は増加いたしました。また、ケア市場におきましては、来年度の国立病院等の独立行政法人化に向けて設備の取替えや医療施設の情報化が進みました。

このような状況の中で、当社はお客様のニーズに応えるべく、新製品の開発と積極的な営業活動を展開して業績の向上に努めてまいりました。

当該四半期における販売状況は、テレビインターホン機器につきましては、防犯に対する関心の高まりを受け、モノクロならびにカラーのハンズフリーテレビドアホンの販売が順調であったことにより前年同四半期比 20.1% 増と売上を大幅に伸ばすことができました。またケアインターホン機器につきましても、医療施設の情報化に対応したナースコールインターホンや高齢者住宅向けインターホンの販売が順調であったことにより前年同四半期比 37.5% 増と売上を大幅に伸ばすことができました。

これらの結果、当第 1 四半期の売上高は 6 億 4 千万 9 千円（前年同四半期比 13.5% 増）と前年同四半期を上回ることができました。

(2) 当該四半期において当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象
該当する事象は発生しておりません。

3. 平成16年3月期の個別業績予想 (平成15年4月1日～平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	13,800	920	530	25.64
通期	31,000	3,200	1,920	91.61

[業績予想に関する定性的情報等]

当該四半期における業績は概ね計画通りに推移しており業績予想に修正はありません。

[業績予想に関する注意事項]

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって実際の業績は予想数値と異なる場合があります。

以上